

① W.H.ユーカース 著、杉本 卓 訳

『ロマンス・オブ・ティー：  
緑茶と紅茶1600年』

(八坂書房)

お茶を飲む習慣は、1600年前に中国で茶樹が発見されてから、世界中に広まり各国で独自の栽培がおこなわれ、喫茶の習慣も異なってきました。

本書は、特に緑茶と紅茶について、その長い歴史に秘められた伝説・逸話・名言・芸術などについて述べられています。

本書の著者ユーカースは、アメリカ人で茶についての百科全書など多く著しており、お茶のスペシャリストですが、残念ながらまだ邦訳されていないものもあり、お茶に興味のある人にとっては貴重な一冊と言えるでしょう。

383.8-Uke (H.T.)

③ 川崎昌平 著

『若者はなぜ正社員になれないのか』

(筑摩書房)

アメリカ発の金融不安が、日本の就職にも大きな影を落としています。大学入試は全入時代ですが、就職は氷河期に逆行しそうな気配です。本書の内容は、大学院を修了した著者が一念発起して、26歳から開始した実際の就職活動です。これから就職を目指す皆さんとは立場が異なりますが、厳しい現実を参考になることでしょう。仕事とは何か、なぜ働くのかという根源的な問題を考える糸口になればと思います。

366.29-Kaw (T.F.)



② 高井潔司、藤野彰、遊川和郎 編著

『現代中国を知るための50章』(第3版)

(明石書店)

中国の動向が世界に与える影響は大きく、様々な面で注目を集めています。中国を取り巻く状況は激しく変化しており、現状を知るには最新情報を得ることが不可欠です。

本書は第3版であり、現代中国を知るための最新の情勢や問題が50項目に分けて解説されています。政治、経済、外交関係など中国の全体像をより深く理解できる本として、一読をお勧めします。

302.22-Gend (N.I.)

④ 玉置半兵衛 著

『あんなあよおっさきや：  
京の言の葉しにせの遺心伝心』

(京都新聞出版センター)

本書は元禄二年(1689)から300年つづく麩商半兵衛麩11代目の主人が書かれたものです。

著者が幼い時に父親からきかされた、人として大切にしないといけない教えが52編書かれています。時代がめまぐるしく移り変わっても人の心は変わらないということを教えてくれます。ほんのささいな日常生活が題材にされていますので、自然に本の中の世界に吸い込まれてしまいます。京都弁が心にしみてくる不思議な本です。

914.6-Tam (N.K.)